

発言No. 20

受付No. 20

平成 26年 8月 26日  
10時45分 受付

## 一 般 質 問 発 言 通 告 書

議席番号 7番

氏名 野藤 薫

答弁を求める者 (○をつける) 市長 教育委員会委員長 監査委員 選挙管理委員会委員長  
農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

### 発言項目及び要旨

1 浜田市の水産業の課題について、

(1) 漁業者の減少について

- ① 基幹漁業（沖底、まき網）の乗組員について、充足率、年代構成、収入面、福利厚生等の現状を伺う
- ② JFしまね浜田支所組合員数の推移（H15年度～H24年度）を見ると、正組合員は546人から250人、準組合員は771人から598人となっている、浜田市の地区毎に増減率が違うが、何か取組（加入促進等）に差が有るのか伺う

(2) 収入増（魚価対策）について

- ① 国の漁業構造改革総合対策事業（沖底船リシップ）の検証たる平成25年4月からの実証事業について伺う

② リシップ事業により鮮度保持が向上したと思うが、魚価に反映されているのか伺う

③ 日本海沿岸の近県は、官民一体となってケンサキイカを生きイカとしてブランド化し魚価の向上を図っている。

平成25年一本釣りの水揚げ金額1億8千万円のうち、29%約5200万円をケンサキイカが占めている。広島をターゲットに魚価向上や集客が図れないか伺う

④ ブルーツーリズムについて

農業はグリーンツーリズムで交流し民泊で地域の活性化をしている。漁業にもブルーツーリズムが有るが、豊かな自然、海を活かした交流による体験や食の地域づくりの取組みについて伺う

## 2 防災、減災について

### (1) 豪雨対策について

① ハザードマップの土砂災害警戒区域を見ると、市内中心部を取り囲むように区域設定されている。

8月20日、広島豪雨災害では土石流により多くの人命が失われた。浜田市において土砂災害警戒区域の防災、減災面のハード、ソフト対策を伺う

② 避難等の基準（浸水想定）は、浜田川において昭和33年7月洪水の日雨量398mm時間降水量72mmとなっている。第二浜田ダムが完成間近では有るが、昨年の水害や、近年の異常気象で想定の見直しは有るのか伺う

③ 市街地の排水路対策（流水経路や分水等）については、第二浜田ダムが未完成ながら、有効に機能し浜田川の決壊は免れた。

しかし駅北地区は浸水し、かなりの被害が出ました。

低地で、浅井川の改修も厳しいが、現状での対策が有れば伺う

(2) 注意や避難等の情報伝達について

① 浜田市の現状を伺う

② 豪雨や停電時等、防災行政無線が聞き取りにくい時など、個別の防災情報受信機が有効だと思うが、被害が想定される地区へ戸別の配布について考えを伺う

(3) 要支援者対策の取組 状況について

①自治会町内会での要支援者と援助者の確認は出来ているのか伺う